



撮影にも挑戦  
「難しかった」  
名護市立羽地小  
【名護】琉球新報記者による出前講座「おでかけりゅうPON!」が12日、名護市立羽地小学校（伊礼正）校長、児童数320人で開かれ、5年生54人が新聞や記者の仕事について学んだ。写



2人一組で  
取材し記事に  
名護市立東江小  
【名護】琉球新報記者による出前講座「おでかけりゅうPON!」が13

## 新聞の仕組み学ぶ

日、名護市立東江小学校（伊禮健校長、児童数583人）で開かれ、5年生105人が参加した。写真。新聞の仕組みや記事の書き方を学んだ後、2人一組で取材し、記事を書き上げた。



真。記者の仕事を経験するワークショップでは、2人一組になって週末の出来事を質問し、記事を書き上げた。

「おでかけりゅうPON!」が12日、名護市立羽地小学校（伊礼正）校長、児童数320人で開かれ、5年生54人が新聞や記者の仕事について学んだ。写

だちの週末の出来事取材し、記事にまとめた。宮城紋佳さん（10）は「記事の書き方をこれから作文に取り入れていきたい」と意気込みを述べ、渡口想大君（11）は「毎日当たり前のように届くが、ちゃんと人の手で作られているのが実感できた。取材の裏話が聞けておもしろかった」と声を弾ませた。

大城琉楓さんは「一番楽しかったのは取材体験。いつ、どこで、誰かなどの5W1Hに沿って質問すると、うまく記事を書くことができた」と笑顔を見せた。

授業の様子を伝える速報も配られ、児童らは手に取って喜んでいた。講師はNIE推進室の佐藤ひろこ、大城三太両記者が務めた。

羽地小の児童らは、新聞を実際にめぐりながらニュースに親しんだ。記者の七つ道具である一眼レフカメラを実際に持ち、撮影に挑戦した大城翔君は「こんなに重いと